

「よみとき新聞ワークシート」 活用例

P2～P5

2017年6月から2018年2月に、28校の小中学校で「よみとき新聞ワークシート」が初めて使われました。実践された先生の声を集め、小学四年生、五年生、六年生の活用例としてご紹介します。

P6～P10

三年生から六年生を対象に言葉の特徴や使い方の指導に、「よみとき新聞ワークシート」を使う例です。罫線だけの記入欄が配置されたワークシートの活用例となります。

P11～P14

公立小学校の二人の先生の活用事例です。

小学四年生(1)

★楽しんで読む 🔍調べ学習 🏠家庭学習

実施して良かった点

新聞に触れる機会が少なく、社会事象などに関する関心や知識が少ない子どもたちにとって、見やすく、読みやすいよみとき新聞ワークシートは、とてもいい刺激になっているようでした。

毎週水曜日に15分間で実施。5W1Hという読む観点を与えられているので、子どもたちにとって読みやすそうです。

新聞記事を選んだり編集したりする必要が無いので、教師の負担も少なく助かっています。

記入済みのワークシートには名前の記入欄の下にスタンプを押し、各自の透明フォルダーに入れて廊下に掲示しました。

変容が見られた児童の様子

よみとき新聞ワークシートに取り組んでいる時間だけでなく、家庭学習で記事の内容をさらに調べようとしていたり、分からない言葉を国語辞典で調べたりする子どもが少しずつ出てきました。

時事に対する関心が高まり、給食の時間などに「きのう加藤一二三さんが〇〇に出ていたよ」など話題に出して盛り上がっていました。

小学四年生(2)

★楽しんで読む 🖋書いてみる

🗣朝のスピーチの話す、聞くにつながる

実践して良かった点

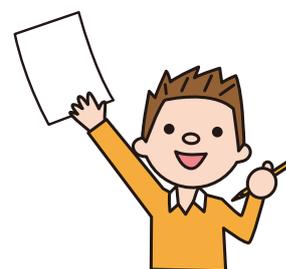
新聞を購入・購読していない家庭も多く、はじめは児童にとってなじみのないものだった。幅広いジャンルの記事にふれることができたので、「教科書・図書館の本以外」の文章を読むきっかけとなった。

変容が見られた児童の様子

よみとき新聞ワークシートの実施前は、学級全体として文章の読み取りが苦手であった。読むことに集中できるよう、配慮を必要とする児童も多かった。

実施後、5W1Hを意識して読むことができるようになり、同時に文章を書くことができるようになってきている児童が多い。スピーチの時間に、5W1Hの視点で構成して話をするすることで、聞き手に伝わりやすいと実感している児童がいる。

国語の学習が嫌いだった児童の1人。文章の読み取り、漢字、言葉の意味の理解も苦手なため、最初は意欲が低く、消極的だった。繰り返していく内に5W1Hの視点で読み解くと文章の内容が捉えやすいと気づき、意欲的に。教員や友達に言葉の意味を質問するようになった。



小学四年生(3)

 文章の読解  家庭学習

実施して良かった点

朝や昼の学習時間での取り組みに児童がなれた後、家庭学習でよみとき新聞ワークシートを使用した。家庭で保護者と児童がいっしょに取り組むことで意欲的になったケースもあった。

児童の文章の読み取り力が不安だと感じている保護者も多く、家庭学習でよみとき新聞ワークシートに取り組むことに好意的な意見が見られた。

小学五年生(2)

 読み比べ

実施して良かった点

1学期からよみとき新聞ワークシートに児童が取り組んだ。新聞を家で取ってない児童には、新聞に触れる機会があるのはとても楽しいようだ。

2学期には国語の「情報ノートをつくろう」の単元で、全国紙の朝日新聞、毎日新聞、読売新聞の三紙を活用した。記事を切り抜きそれをノートにはり、記事の説明と感想を書く学習を続けることができた。

小学五年生(1)

 社会へ関心を持つ  感想や意見を書く

実施して良かった点

幅広い分野で児童の社会事象に対する関心や理解が高まった。

変容が見られた児童の様子

始めは感想のみの記載だったのに、徐々に根拠を交えた(はじめ 中 終わり)の構成で意見をまとめる児童も増えてきて質的な変化が見られた。

小学五年生(3)

 楽しんで読む  書いてみる

 感想や意見を述べあう

実施して良かった点

よみとき新聞ワークシートに児童1人で取り組むことに慣れたあと、スタイルを変更した。6分間は一人で読解に取り組む、3分は自分の意見を書く、書き終わったら隣の席の子ども同士で感想を読み合い、それに対する感想を書き入れた。友達と一緒に取り組むスタイルは、子どもたち全員が楽しく意欲的に取り組んでいると感じられる。

保護者の数名から「社会に対するアンテナが高くなった」という声が聞かれた。

変容が見られた児童の様子

友達と一緒に取り組むスタイルは、子どもたち全員が楽しく意欲的に取り組んでいると感じられる。書き込んだワークシートをクリアケースに入れて全員分掲示している。掲示されている意見や感想を児童が読み合う姿が見られた。

小学五年生(4)

 社会へ関心を持つ  新聞に親しむ
 感想や意見を書く

実施して良かった点

国際、政治、文化、スポーツなど様々な分野の出来事についてタイムリーに話題にできる。異文化とふれることで日本を見つめる機会となる。

「新聞を読むことが増えました」と保護者の声
が寄せられた。

記入済みのワークシートに、児童自身で3色のマーカーをつかって「記事の事実」、「知識や経験」、「自分の考え」の部分に線を引いた。文章の構成を自覚できた児童が増えた。

クリアファイルに記入済みのワークシートが増えていくことがうれしそう。

小学五年生(5)

 楽しんで読む  感想や意見を書く

 社会へ関心をもつ

 メディアリテラシー

実施して良かった点

国語科の説明文単元において、テレビや新聞やインターネットなどのメディアが伝える情報について筆者の考えを読み取る。筆者*は情報を適切に受け止めるために想像力を働かせる必要があり、『事実かな、印象かな。』『他の見方もないかな』『何かがかくれているかな。』『まだ分からないよね。』の四つのスイッチについて説明している。(*下村健一(2017)『想像力のスイッチを入れよう』光村図書出版

児童がこれまで記入してきたワークシートの意見・感想欄を改めて読み、情報受信を見直す時間をつくった。

視点の違い、文化の違い、立場の違いがあることを児童が知り、表現することができた。



小学六年生(1)

 社会へ関心を持つ  新聞に親しむ

 感想や意見を書く

実施してよかった点

事実のみの記載が子どもの読みやすさにつながり、クラス全員が意見や感想を書くことができた。

新聞にふれていない児童がほとんどの状況だったので、新聞記事にふれ、同時に最新の出来事を知ることができるいい機会になった。児童にとつたアンケートでは「ニュースを知ることができて楽しい」「日常の様々なことに関心が高まった」など前向きな感想が見られた。

変容が見られた児童の様子

社会科の新聞作りに活かすことができたという児童がいた。

小学六年生(2)

 新聞に親しむ  社会へ関心をもつ

 学級討論会につながる

実施してよかった点

個人面談で保護者から「最近、ニュースを見るようになった」「テレビ欄以外を読んでいる」「ヒアリの話を真剣にしてくる」といったうれしい言葉を聞くことができた。文章を読み、自分の考えを自分なりに表現しようとする子が増えた。

国語の単元「学級討論会を開こう」との相性が良かった。静岡県の小学校で夏休みが10日間になったという記事に賛成か反対かにわかれ討議は大いに盛り上がった。

掲載されている活用例は、(一社)デジタル表現研究会の新聞教材活用プロジェクトに参加した先生方による実践結果報告をもとにしています。
理想科学工業と朝日学生新聞社は同プロジェクトに教材を提供しました。

知識および技能向上のためによみとき新聞ワークシートを使う。

言葉の特徴や使い方の指導

第三学年および第四学年

1. 新聞ワークシートを配布して、四つの記事を教師が読む。
 2. 四つの記事のうち、記事を一つ選ぶ。
 3. その記事について、分からない言葉を教師が解説する。
 4. 感想や意見、関係のありそうな自分自身の経験について話し合う
 5. 話し合ったことをもとに、書くテーマを決める。(先生か児童の発案で)
 6. 話し合ったこととテーマをもとに、考えと理由を二段落で書く。
- 書き出しと文末がそろうように書く。
漢字を○つ以上使って書く。

※ほかの条件の時は教師が指示する。

第五学年および第六学年

1. 新聞ワークシートを配布して、四つの記事を教師(または児童)が読む。
 2. 四つの記事を一人一人が再度読み、児童一人一人が興味を持った記事を選ぶ。
 3. 分からない言葉を先生に聞いたり、調べたりする
 4. 同じ記事を選んだ者同士で、感想を話し合う
 5. 話し合ったことをもとに、自分でテーマを決める ※○○○が・・・になったことについて
 6. 記事の内容に合わせて、指示された条件で書く
- ※記事ごとに条件を違わせる必要も出てくるかもしれない。

条件作文活用例 中高学年

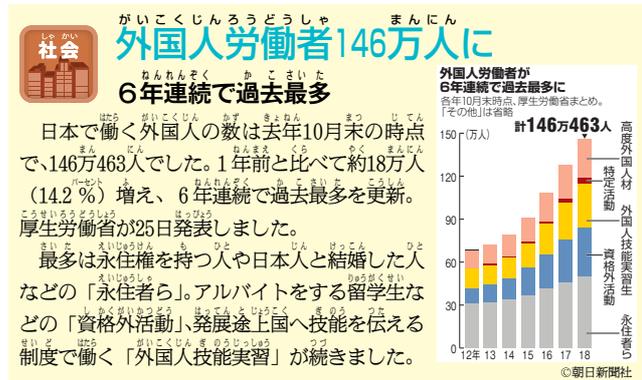
○列挙して書く

◆書く条件

- ・一段落目に記事やグラフを見て「二つのことに気づいた」と書く。
 - ・二段落目は、「一つ目は」、三段落目は「二つ目は」と書いて気づいたことを列挙する。
 - ・常体で書く。語尾に注意させる。
- ※高学年はグラフの年度や労働者数の割合を比較できるとよい。

学習時間十五分

- ① 「一つ目は」「二つ目は」を使って記事やグラフを見て気づいたことを作文に書く練習をすることを伝える。
- ② 「外国人労働者…」を選んで書くことを伝える。
- ③ 記事を教師が読み、記事とグラフを見て気づいたことを話し合っ、いくつか出させる。分からない言葉は補足する。
- ④ 「記事やグラフを見て気づいたこと」を作文にするために、書くときの条件を伝える。(板書)
- ⑤ 残り五分で、条件に従って書かせる。



2019年1月30日配信分

文例

作文のテーマ

〈記事やグラフを見て気づいたこと〉

自分の感想や意見

(中学年) 九十八文字

ぼくは記事やグラフを見て、二つのことに気づいた。一つ目は、外国人労働者の数は平成十六年ごろから急にふえたことだ。

二つ目は、百四十六万人という数が、一つの県の人口くらいになっているということだ。

(高学年) 百一十一文字

私はグラフを見て、二つのことに気づいた。

一つ目は、平成十二年と平成十八年を比べると、外国人労働者の数が二倍になっていることである。

二つ目は、資格外労働や技能実習生、高度外国人材の割合が、今は大きくなっていることである。

条件作文活用例 中高学年

○二つの相反する視点で書く

◆書く条件

- ・一段落目に良い点について自分の考えとわけを書く。
- ・二段落目は、「しかし」を使い別の見方で考えと分けを書く。
- ・常体で書く。

学習時間十五分

- ①新聞を読んで「しかし」を使って二つの見方で作文を書く練習をすることを伝える。(プラス面、マイナスメ面)
- ②四つの記事から「去年の訪日客」を選んで書くことを伝える。
- ③記事を教師が読み、去年の訪日客が四兆五千億円使ったことについて、よいことや心配なこと(プラス面、マイナス面)について書かせる。どの事実からそう思ったのかを聞く。分からない言葉は補足する。
- ④乾燥をもとに「去年の訪日客…について」乾燥を作文にするために、書くときの条件を伝える。(板書)
- ⑤一段落目に良い面について自分の考えを書く。
- ⑥二段落目は、しかしをつかって逆の見方の考えを書く。
- ⑦残り五分で条件に従って書かせる。

経済 去年の訪日客4兆5千億円使う
政府目標8兆円まだまだ

去年1年間に日本を訪れた外国人は3119万2千人、日本で使ったお金(速報値)は4兆5千億円、いずれも過去最高を更新したと、観光庁が16日発表しました。消費額は7年連続で過去最高を更新していますが、政府が2020年の目標とする「訪日客数4千万人、消費額8兆円」はまだ遠い状況です。目標達成には、1人あたり20万円の支出が必要な計算になります。観光庁は、比較的消费額が多いヨーロッパやアメリカなどからの呼びこみに力を入れる考えです。

2019年1月24日配信分

文例

作文のテーマ

〈プラスなこと、マイナスなこと〉

自分の感想や意見 (百六文字)

日本にたくさんさんの訪日客がおとずれることは、いいことだと思う。わけは、日本の商品がたくさん売れるからだ。

しかし、政府の目標を達成するには、ホテルの数や交通の便など解決しなければいけないことがまだまだあると思う。

条件作文活用例 中高学年

○二文を一文で書く。

◆書く条件

・一段落目に吉田選手について自分の思いを書く。

「吉田選手はくだと思います。」

・二段落目を二つわけを書くが、

「くしたり、くしたりしたからです。」と二文を一文で書きます。

学習時間十五分

①新聞記事を読んで「くたりくたり」を使って二つのことを一つにまとめて作文を書く練習をすることを伝える。

②四つの記事から「吉田選手が引退」を選んで書くことを伝える。

③記事を教師が読み吉田選手のことをどう思うか聞く。どの事実からそう思ったのかを書く。分からない言葉は補足する。

④感想をもとに「引退した吉田選手について」を書くときの条件を伝える。(板書)

⑤まず一段落目に吉田選手について自分の思いを書く。

⑥二段落目は、記事から二つわけを選んで「くたりくたり」を使って一文で書く。言葉の対応に気をつけさせる。

⑦残り五分で条件に従って書かせる。

スポーツ **吉田沙保里選手が引退**
レスリング五輪3連覇

レスリング女子でオリンピック(五輪)3連覇を果たし、国民栄誉賞を受賞した吉田沙保里選手(36歳)が8日、自身のツイッターで現役引退を発表しました＝写真は2012年のロンドン五輪で優勝した



吉田選手。16年リオ五輪後は、日本代表選手らを指導するなど公式戦には出場していませんでした。10日に東京都内で記者会見を開き、引退の理由などを説明する予定です。

©朝日新聞社

2019年1月17日配信分

文例

作文のテーマ

〈吉田せん手について〉

自分の感想や意見(六十九文字)

吉田せん手はがんばったと私は思います。

わけは、オリンピック三れんぱをはたしたり、三十六さいまでレスリングをつづけたりしたからです。

条件作文活用例 中高学年

○考えとそれを支える理由や事例を、文末を意識して書く。

◆書く条件

・一段落目に驚いたことを書く。

「私がおどろいたのは、くこと(とこ)ろ)です。」

・二段落目は「なぜか」というと、「に続けて、文末に「くからです。」と驚いた理由を書く。

学習時間十五分

- ①新聞記事を読んで「おどろいたこと」を作文に書く練習をすることを伝える。「驚いたことは？」
- ②四つの記事から「大間のマグロ」を選んで書くことを伝える。
- ③記事を教師が読み、児童に感想を聞く。分からない言葉は補足する。
- ④感想をもとに「おどろいたこと」を作文にするために、書くときの条件を伝える。(板書)
- ⑤特に始めと終わりの対応関係を確認する。二段落で書かせる。
- ⑥残り五分で条件に従って書かせる。

社会 **大間のマグロ、3億3360万円也** 豊洲初セリで史上最高値

東京都江東区の豊洲市場で5日、新春の初セリがありました。去年10月に築地市場(中央区)から移転して初めての正月です。毎年高値が話題になる生の本マグロは、青森県大間産の278キロの大物一写真が3億3360万円(1キロあたり120万円)で落札されま

した。1匹の総額、1キロ単価ともに史上最高値といえます。これまでの最高値は、2013年の初セリでせり落とされた222キロの大間産で、1億5540万円(1キロ70万円)でした。



©毎日新聞社

2019年1月10日配信分

文例

作文のテーマ

〈おどろいたことは？〉(八十九文字)

ぼくがおどろいたのは、二〇一三年にくらべて、今年のマグロが二億円近くも高くなったことです。

なぜかというと、今年は、五十キログラム重いだけなのに、値段ががちがいきるからです。

「よみとき新聞ワークシート」 活用事例のご紹介

朝勉強に「よみとき新聞ワークシート」を使い始めて半年で、子ども達の読む力、考える力、書く力が目に見えて成長しています。

安城市立安城北部小学校
教諭 特別活動主任

鈴木 朗子様



活用方法

- ①好きな記事を選んで読む
- ②5W1Hを抜き書きする
- ③記事を読んだ感想、意見を書く
- ④ワークシートをファイルに綴じて教員に提出

教材作成の手間をかけずに新聞を使った学習ができる。

私のクラスでは、以前から新聞を授業に取り入れていました。授業に関係する記事を配ったり、興味を持ちそうな紙面の切り抜きを教室に掲示して、子ども達が新聞を読みたいと思うきっかけになるよう取り組んできました。子ども達の活字離れが進み、新聞を取っていない家庭が増えている中で、読解力や考える力を育てるためには新聞を読むことが大切だと考えているからです。そんな中で、半年前に「よみとき新聞ワークシート」のを知り、早速クラスで取り組み始めました。

よみとき新聞ワークシートは、理想科学工業のプリンターユーザーの希望者に無料で配信される学習教材です。朝日小学生新聞から抜粋した記事と学習書式があらかじめ組み合わせられて

いるので、教員はそれを印刷して子どもに配布するだけ。記事を選んだり切り抜く作業が要らないため教材作成の手間がかかりません。また、写真と見出しがあることで子ども達にも分かりやすく、興味を持つような記事がバランス良くチョイスされています。私のクラスは6年生ですが、5年生でも理解できる内容だと思います。

教科書はもちろん、お知らせのプリントも子ども達がよく読むようになった。

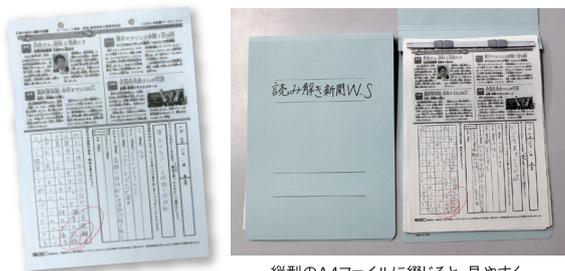
このワークシートを毎週1回、1時間目が始まる前の朝学習の時間に活用しています。その方法は、①子ども達が4つの記事から関心のある記事を1つ選ぶ。②その記事の中から5W1Hを書き出す。③感想や意見をワークシートに書き込む。④A4ファイルに綴じて提出。教員がそれに対するコメントを書く……というやり方です。選んだ記事を元に話し合いを行ったり、時間をかけて読ませるために宿題に出すこともあります。取り組み始めた当初は、子どもが書き込んだワークシートを教室に掲示していましたが、過去の記事を読み返したいという子ども達の要望もあり、ファイルに綴じることになりました。私も過去のワーク

シートを見返すことで子どもの成長が確認できるので、ファイル方式が理に合っていると思います。

よみとき新聞ワークシートの活用を始めてから、子ども達の読む力、書く力、考える力が伸びていると感じます。ワークシートを使い始めた頃は、多くの子どもの感想・意見は見出しを読んだだけの浅い内容で、1~2行しか書かれていませんでした。それが半年で、記事をきちんと読み込んで深く考えた感想に変わり、行数も倍以上に増えました。私は週に1度でも子どもが自分の考えを持ち、それを表現することが大事だと思っています。さらに、読み書きのスピードもアップ。以前は朝勉強の15分間では難しかったのが、今は余裕を持って終わります。提出されたワークシートに私が別の視点やアドバイスを書いて返すと、次のワークシートにそれを活かす子どももいます。そのように、ワークシートを通じて子ども達の成長が目に見えて実感できます。

また、ワークシートを活用して以降、子ども達がいろいろなものをよく読むようになりました。国語の教科書の物語を読むときは、まるで文字の中から何かを探し出すように熟読しています。以前はなおざりにされていたお知らせのプリントにもきちんと目を通すようになりました。

今では子ども達もワークシートを「よみとき」と愛称で呼んで楽しみにしています。私も、子ども達がどの記事を選ぶのか、わくわくしながら活用しています。



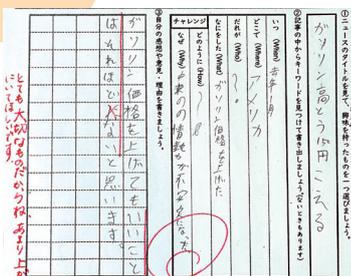
よみとき新聞ワークシート

縦型のA4ファイルに綴じると、見やすく、教員も書き込みやすい。

書く量だけでなく内容とスピードもアップ!

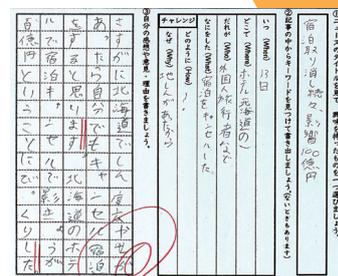
Before
2018年5月

文章量が少なく
記事の読み方も浅い。



深く読んで文章量も増えた。
書くスピードも早くなった。

After
2018年10月



導入時担当営業の声

日頃はリングラフなどの印刷機でお客様に喜んで頂いていますが、「よみとき新聞ワークシート」のように印刷機から出力するコンテンツが教育に役立っていることを知り、嬉しく思います。さらに多くの子ども達の成長に役立てるよう、他の教員の皆様にもお勧めしたいです。



理想科学工業株式会社
中部営業部 理想三河支店 営業課
見富 康英

「よみとき新聞ワークシート」 活用事例のご紹介

**「よみとき新聞ワークシート」を生かした学習を通じて
多くの児童の読解力や要約力が
確実に高まっていることを実感しています。**

横浜市立小中学校
教諭
浦部 文也 様



活用方法

- ①好きな記事を選んでグループ分け
- ②調べ学習
- ③自分なりの感想を書く
- ④記入後のワークシートを教室の後ろに掲示

授業や朝学習に、特別な準備が不要な「よみとき新聞ワークシート」を活用。

新学習指導要領には、読解力を育成するための新聞の活用が盛り込まれています。また新聞をよく読む子どもほど学力が高いという調査結果もあり、私のクラスでは、毎月1回程度「よみとき新聞ワークシート」を活用した国語の授業を行っています。

よみとき新聞ワークシートとは、朝日小学生新聞の記事と学習書式を組み合わせた教材で、理想科学工業のプリンターユーザーの希望者に無料で配信されます。従来は一から教材をつくっていましたが、毎週送られてくる「よみとき新聞ワークシート」を印刷して配布することで授業が行えます。教材づくりの負担が無くなり、授業づくりの時間が十分に確保されることで、教育効果の高い授業が可能になりました。

よみとき新聞ワークシートを活用した授業では、①4つの記事から自分の関心のある記事を1つ選んで、個人学習として5W1Hを書き出します。②同じ記事を選んだ児童で5人前後のグループを作ります。③グループに1台ずつ配付されたタブレットPCを使用して、みんなで記事に関連する資料を検索。使いたい資料が見つかったらICT機器を利用してプリントアウトします。④プリントア

ウトした資料を透明なシートに挟み、それを囲んでグループ内で議論し、発見したポイントを透明シートの上にサインペンで書き込みます。⑤完成したシートを黒板に掲示します。時間がある時には、グループごとに発表を行います。⑥最後に、個人でその記事への感想や意見をワークシートに書き込みます。

議論で発見したポイントを書き込んだシート



個人学習→協働学習→個人学習という順番で学習に取り組むことで、個人で理解した後に、協働学習で問題意識を広げたり刺激を受けたりして、最後に個人の力に還元されるようになっていきます。

国語の授業以外でも、毎週、朝学習の15分間を利用して、よみとき新聞ワークシートを使った個人学習を行っています。その際にも、同じテーマを選ぶ児童が近くに座ることができるようにすることで、テーマについてどう考えるかなどの会話が生まれるよう促しています。

よみとき新聞ワークシートの活用を始めて、多くの児童が成長していると感じます。ワークシートを使い始めた5月の段階では、ほとんどの児童の感想・意見が2行ほどで、内容もあまり踏み込めていませんでした。それが、半年近くたった9月には、ワークシートの枠いっぱいには書き込んでいる児童が多く、教員が気づかなかった内容を書いていることも少なくありません。

半年で感想・意見が大幅に成長。 他者の意見にも関心が芽生えた。

また、この授業を通じて自分の意見を相手に伝えること、認められることに喜びを感じるようになります。さらに他者の意見に関心をもつようになっていきます。授業後のワークシートは、教室の後ろに全員分を掲示しているのですが、休憩時間に友達ワークシートを読んでいる児童も多く、読解力や要約力、批判力、発信力が身につけています。また、主体性・協働性・多様性を育む効果も生まれていると感じます。



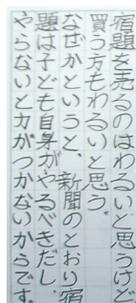
教室の後ろに個人別ポケットにて掲示

子ども達の成長も目に見えて実感!!



Before
2018年5月

感想のみで
文章量も
少ない。



After
2018年9月

自分の意見や
根拠も述べら
れている。

導入時担当営業の声

浦部先生には「よみとき新聞ワークシート」の開発過程からモニターしていただき、より多くの先生方に使っていただけるワークシートになりました。現在も、ご自分のクラスで活用して児童の力を伸ばしておられる取り組みを目の当たりにし、とても嬉しく感じています。



理想科学工業株式会社
公共営業部 文教営業課
内藤 博康